

CPP工法導入事例

建替時のトラブルから脱セメントへ オンリーワン工法で他社との差別化を

新潟県新潟市 株式会社丸喜



株式会社 丸喜
代表取締役 浅賀雅人

“空間づくりのトータルプロデュース”を掲げ設計・デザイン・地盤・基礎・建築までの一貫体制で施工を行う。新潟市で40年以上続く老舗で、地盤・基礎部門では他社工事も数多く引き受ける。全工程を理解した視点からの最適な提案を行っている。

「うちでは地盤改良をするとき、セメントを使わないようにしているんですよ。というのは、家が建っていた土地を更地にして建て直す時に、その基礎をとってみたら地中にコンクリートの改良体が埋まっていた。10年前ぐらいからそんなことが何件が出てきたんですね。その時は撤去出来ないで、改良体を避けて再度、改良を行ったのですが配置を換えてやるのは2回目は無理だね、この土地使えなくなるね、という話があったんです。そこでもうセメントは駄目だな、土地の価値を下げるなって気がついて。それで他の工法に切り替えたんです。」

当時は **GSTC 工法**（生石灰と混和剤を軟弱地盤にゆっくり注入し圧密させ、炭酸塩の地盤を作る工法）を施工していた。

「ただ、コレはやってみなきゃ解らない部分が結構あって、検討書が出ないとか、思ったよりも固化剤をたくさん使って赤字になったりとか、注入する工法なので土圧が結構あってブロック塀痛めたりとか使いにくいな、と思ってた部分もあったんです。」

その時、機械が入らないような狭小地現場が出てきて、どうしようかと悩んでいたときに CPP工法を紹介されたという。

▼狭小地を施工する DHJ-08。プラント不要で資材も手運び可能という CPP の特徴によって狭小地でのスムーズな施工を可能にしている



「やってみたらいとも簡単に施工できるし、当時狭小地現場が続いていたので助かりました。」

それをきっかけに CPP工法に惚れ込み、同社の主力地盤改良として採用したが、それには2つの大きな理由があった。

「一つはオンリーワンな工法であるということ。例えば柱状改良だと、どこの改良屋でもやっていますよね。そうすると価格勝負になって仮に取れたとしても利益幅は少ない。CPP工法は同じような工法が一切無いし、完全撤去可能であるとか、いろいろなアピールポイントがある。価格で負けたとしてもそういった点を評価されて採用されたこともあります。もう一点は繰り返しになりますが完全撤去が可能である、ということ。あと10年もすると建て替える家がたくさん出てくると思います。」

平成11年に成立した品確法によって地盤調査と地盤改良が普及してから今年で20年。住宅の平均建て替え年数が30年であることから、今後地盤改良を行った家の建て替えが進んでいく。

「建て替えてセメントを使った地盤改良の問題もどんどん顕在化してくる。その時に CPP工法は完全撤去出来ます!というのすごい武器になると思いますよ。」

浅賀社長はこうも言ってくれた。

「僕は自分のことを馬鹿にされても大して感じないんですが、会社と CPP工法を馬鹿にされると頭にきてしまう。でたばかりの工法だから色々言われることはあるんですけど、CPP工法は良い物なんだ!って自信をもってずっと言ってます。それぐらいこの工法に惚れ込んでいるんです。」



令和2年2月 新潟市にてインタビュー